

武漢事務所便り週間新聞記事 2009.12.23 - 2009.12.29

武漢市各観光地 元旦からの3日間で10万人以上の観光客を迎える

元旦からの3日間、武漢市の有名な各観光地の売り上げ記録は特に目立っていた。統計によれば、東湖、黄鶴楼、武漢植物園、湖北省博物館などの観光地には10万人以上の観光客が訪れ、特に武漢広州高速鉄道を利用した訪問団は増加の要因となり、一部観光地では全観光客の60%を占めた。

黄鶴楼には元旦からの3日間に2万2,600人の観光客が訪れ、短期ゴールデンウィーク並みの人出を記録した。観光客のピークとなった2日目の観光客は1万人を超えたという。また今年の元旦に武漢広州高速鉄道を利用して武漢市を訪れた観光客は、全観光客数の60%から70%を占めており、このほか広東、湖南省からの高速鉄道を利用した個人観光客も少なくなかったという。こうした旅行ブームは、旧正月に再び起こるものと見込まれている。

東湖磨山観光地には1万人以上の観光客が訪れ、また入場料が無料の東湖聽濤区には、4万4千人の観光客が訪れた。このうち広東からの高速鉄道団は新たなスポットライトを浴びることとなり、今年の梅まつりや桜まつりのシーズンには東湖も旅行ブームのピークを迎えることとなりそうだ。

観光地の関係者の話によると、高速鉄道の開通が、省外から武漢市内の観光地を訪れる観光客に大きな影響を与えている。湖北省博物館には3日間で1万6600人が訪れたほか、古琴台には数百人が高速鉄道団として訪れた。

武漢市の一部の旅行社は「武漢の旅行業は、初めて高速鉄道経済時代の利益を得た。」と語った。

2009年12月29日付け 「武漢政府ネット」より

来年武漢市のバス代は引き下げられる予定

12月16日、武漢人民大会委員は市の交通問題について視察を行った。武漢交通委員会の責任者の話によると、来年武漢市のバス代がさらに引き下げられる予定であるとのことだ。

関係者の話によると、これは武漢市政府が来年実施する「市民のための十大

任務」の法案のひとつであり、市民の公共交通機関の利用を促進するため、2009年のバス代引き下げ、およびバスカード優遇政策に加え、バス代をさらに引き下げるものである。ただし具体的な法案は現在検討中とのことだ。

このほかにも武漢市交通委員会は新たなフェリー航路を開拓し、船の新調も行う予定である。これにより、2010年には現在ある7本の航路に加え、月湾から武漢関までの航路が新たに開通されるほか、13艘ある普通客船のうち6艘が800席の普通客船に新調され、武漢関 中華路間と集家嘴 - 黄鶴楼間の2航路において運行される。

このほか大型貨物車が長江を渡る際の橋への負担を解消するため、来年には大型貨物車用の船舶専用航路も開通される予定であり、これにともない月湾から漢口濱江苑までの航路も改善され、青菱郷西湾壺大型貨物車埠頭が建設される予定である。